

1. 目的

家族経済は、家族の幸福を実現するために物質的な面から家庭生活の安定向上をはかるのであるが、それには、予算生活をするのが最良の方法であると考えられている。そこで、予算生活上不可欠の手段としての家計簿記が一層普及し、完全な家計簿記が要求されるようになることがのぞましいのである。ところが家計簿記の研究はその要求に十分応えうるほど進んでいるとは考えられない現状であり、企業簿記を中心として発達した複式簿記の理論をそのまま家計簿記に用いては家族経済の特性に適合しない面がある。よって家族経済に適合し、普及し易く完全な家計簿記を工夫する必要があると考えられる。そこで、その理論的根拠とするために本研究をおこなったのである。

2. 方法

家族経済と企業経済との相異点についての認識の上にならって、①家族経済の特性に適合するように②予算生活上利用し易いように③普及し易いようにとの配慮をしつつ家計簿記に複式簿記の理論を応用しようと試みた。

3. 結果

複式家計簿記についての一連の考えをまとめたので、今回はその第1報として主として家計簿記用語および財産計算について述べたいと思う。